

医師の負担の軽減及び処遇の改善に関する取組事項

No	項目	取組項目	2024年度の計画
1	医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担	初診時の予診の実施	○A I 問診活用の継続・対象拡大 ○看護師及び事務職員による問診実施の継続
		静脈血採取等の実施	○静脈採取、静脈注射及び留置針によるルート確保を実施できる体制の継続 ○看護師によるポート穿刺の実施促進 ○看護師の特定行為研修修了者による救急外来での検査プロトコル実施の定着 ○人工呼吸器管理関連研修を実施し、呼吸器管理ができる一般病棟の拡大
		入院の説明の実施	○入退院支援センターによる入院説明の実施 ○産婦人科普通分娩及び小児の入院にも介入
		検査手順の説明の実施	○看護師及び事務職員による検査説明の実施の継続
		服薬指導	○薬剤師による術後患者の服薬指導に関する包括的なサポート体制の整備 ○薬剤師と他職種との協力のもと、持参薬に関する効率的な運用の見直し ○薬剤師外来の継続 ○薬剤師が術後疼痛管理チームに参加し、術後患者の服薬指導を包括的にサポート
		医師と薬剤師の業務分担	○手術室への専任薬剤師の配置(午前のみ) ○プロトコルを用いた医師の業務負担軽減 ○薬剤師による持参薬の継続指示代行入力(持参薬が全て継続となる診療科に限定) ○剤型、規格変更などの処方変更プロトコルによるオーダー変更の代行入力
		医師と臨床検査技師との業務分担	○術中モニタリングにおける機器のセッティング及び電極装着(要望がある場合) ○エコーガイド下処置時の補助業務及び造影剤注入(要望がある場合) ○超音波検査の領域拡大(皮膚科領域(皮膚表在)エコー、泌尿器科領域エコー) ○糖尿病検査機器の使用・検査手順説明 ○がんゲノム医療における検体処理・データ管理 ○手術検体等に対する病理診断における切り出し補助業務の継続 ○血液製剤の洗浄・分割 ○細胞診・超音波検査等・骨髄検査・フローサイトメトリーの検査所見を報告書に記載し担当医に配布 ○免疫染色等に対する計数・定量判定補助 ○血液細胞(幹細胞等)・胚細胞に関する操作 ○経食道エコー・ラジオ波焼灼術・腎生検補助業務 ○迅速抗原検査の陽性者報告 ○病棟での糖尿病関連の検査内容説明及び自己管理の指導 ○細胞治療における細胞調整 ○外来や内視鏡室における術中迅速細胞診検体採取・染色・診断報告 ○エコーガイド下で採取した検体の切り出しや前処理 ○耐性菌サーベイランスとして集計データの提出 ○血液培養陽性者、無菌材料からの菌の検出 ○アウトブレイク時の環境調査や保菌調査
		医師と診療放射線技師との業務分担	○撮影指示出し対応技師の増員 ○血管造影検査時の画像処理・読影補助 ○R I 検査のアドバイス・R I 投与時の介助 ○マンモグラフィにおける一次読影の補助 ○C T / M R I 検査の撮影方法の助言 ○手術支援のための3D画像の作成 ○救急における画像診断への助言 ○患者さん・ご家族からの被ばく相談 ○イメージガイド下放射線治療(I G R T)での位置照合画像の一次照合 ○医療放射線安全管理責任者の補助業務 ○撮影指示入力業務分担 ○胃透視検査の実施(人間ドック)継続及び胃透視撮影対応技師の増員
		医師と臨床工学技士の業務分担	○緊急カテーテル検査時の治療介助 ○麻酔器呼吸器回路セッティングおよび機器管理 ○心・血管カテーテル業務における清潔野で使用する生命維持管理装置の操作及び接続の継続 ○心臓植え込み型デバイスにおける遠隔モニタリングシステム管理 ○翌日に使用する動脈圧ラインの作成 ○透析患者への穿刺業務
		医師と管理栄養士の業務分担	○食種変更の一部入力作業の代行 ○食事内容、経腸栄養、経静脈栄養についての提言 ○食種や経腸栄養剤等の選択の補助 ○退院時指導の補助の継続 ○経腸栄養のプランニングや食事変更の代行入力の仕組み作りの検討
		医師と理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等の業務分担	○運動機能、生活状況、高次脳機能、言語発達障害、嚥下機能及び聴覚の評価に必要な検査の実施又は情報提供 ○病棟専属療法士による早期離床、廃用症候群予防への取り組み ○退院時に患者及び家族に対して、医師の指示のもとに行う退院時リハビリテーション指導の継続
医療関係職種と事務との業務分担	○退院サマリー下書き、診断書の代行作成、代行入力、資料作成、患者介助補助 ○電話対応、物品請求等の継続 ○A I 問診を活用した新患記事、内服薬などの入力 ○R P Aによる代行入力を拡大		
A I、I C T、I o Tの活用	○R P Aを導入し、現場スタッフへの普及を図る ○救急外来におけるA I問診活用の継続・対象拡大 ○業務効率化を支援するツールを現場スタッフに提供 ○病院情報システムに院外からアクセス可能な端末の貸し出しを検討		
医師事務作業補助者の増員	○令和6年度までに50名体制を目指す ○キャリアラダーの導入 ○業務量に合った配置を行い、負担の多い診療科の補助を強化		
2	勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施	休日・夜間勤務の作成	○当直勤務体制の実態についてデータの作成を継続し、問題点を把握
3	前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間の一定時間の休息時間の確保(勤務間インターバル)	勤務間インターバル	○勤怠管理システムで勤務間インターバルを管理し、確保できない場合は医師自身に警告を表示する仕組みを運用し、休息時間の確保に努める
4	予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮	当直及び夜勤後の勤務について	○勤務間インターバル及び連続勤務時間制限に対応できるよう、新たな働き方(勤務シフト等)を引き続き検討
5	当直翌日の業務内容に対する配慮	当直翌日の外来診療について	○勤務間インターバル及び連続勤務時間制限に対応できるよう、新たな働き方(勤務シフト等)を引き続き検討
6	交代勤務制・複数主治医制の実施	交代勤務制・複数主治医制について	○複数主治医制の考え方周知、対象診療科拡大
7	育児・介護休業法第23条第1項、同条第3項又は同法第24条の規定による措置を活用した短時間正規雇用医師の活用	育児等のための所定労働時間の短縮措置について	○短時間勤務、部分休業等の育児・介護に関する時間短縮制度の継続